

「国語教育研究 I」の授業の検討

国語教育講座 中西 淳

1. 授業の概要

本授業は、国語教育の問題点を踏まえた上で授業を構成することができるようになるための、授業構想力を養成するところにその特徴がある。目標及び具体的な到達目標は以下の通りである。

<目標>

○国語教育の主要論文・実践や教科書を取り上げながら、国語教育のあり方について考究することができる。

<具体的な到達目標>

○自らの問題意識に即しながら国語科教育に関する主要論文を探し出すことができる。

○論文を批判的視点を持って的確に読むことができる。

○自らの国語教育観を深めることができる。

これらは、教育学部 DP の以下の二点に該当する。

○自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。(関心・意欲)

○教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

2. 授業の展開

授業の展開は以下の通りである。

- ① 国語科教育に関する学びの振り返り
—カリキュラムにおける位置づけ—
- ② 国語科教育の現状と目標
—学習指導要領の改訂を視野に入れて—
- ③ 国語科教師に必要な力とは
—学び方を学ぶ—
- ④ 国語科教育の問題について考える
—問いを発する力—
- ⑤ 海外の国語科教育
—カナダ・オンタリオ州における学習指導要領—
- ⑥ 話すこと・聞くことの学習指導
—自分が受けた授業を振り返って—

⑦ メディア・リテラシー教育を考える

—学習者の実態を背景に—

⑧ 国語教育と道德教育

—夕焼け論争を通して—

⑨ PISA 型読解力の検討

—従来の読解力と比較して—

⑩ 学習者の表現を捉える (1)

—評価と評語について—

⑪ 学習者の表現を捉える (2)

—「縦」と「横」の評価—

⑫ 文学教育の授業

—登場人物の気持ちを問わない授業の試み—

⑬ 学びの定着とは

—学習記録をもとに—

⑭ まとめ

⑮ 試験 (レポート作成)

受講生は昨年と同様の 13 名である。

3. 授業の工夫点と留意点

本授業は、これまでと同様に基本的に学習者の問題意識に即して授業内容を決定していった。アンケート結果から、その展開の有効性が明らかになったからである。この点が本授業の最も大きな工夫点である。

結果的に本年度の授業内容は、昨年度とそれと重なる点が多く出てきた。例えば、海外の国語教育について学びたいという希望があり、「カナダ・オンタリオ州における学習指導要領 (言語)」を紹介した。また、それに即して、必修科目科目においては十分取り扱うことのできないメディア・リテラシー教育の現状と課題についての授業も行った。それぞれの授業は、質疑応答をもとにして構成した。

また、授業を展開するにあたって、次の点に留意した。

① 批判的視点の形成

学習指導要領の解釈において、学習者は一般的に『学習指導要領解説』などに頼りがちである。それらに頼るのではなく、自分の目でどのような特徴があるのか捉えることができるよ

う、批判的視点の形成をねらった比較読みを導入した（「教育の流れを捉える―新学習指導要領と旧との比較を通して―」）。

② 協議力の形成

学校現場では、授業の協議力が問われる。授業は基本的にディスカッション形式をとった。発言の受け方、質問の仕方等に関する具体的な支援を行うことによってその力の育成を図った。

③ 読解力の育成

論文を読む力は、「成長する教師」となるために必要である。授業において国語科教育に関する論文を提示し、いかに読んでいけばよいのかその指導を行った。

4. 授業外学習について

必要に応じて事前学習として課題を出し、それに考えてくるよう指示を出した。3年次後期の国語科教育法Ⅳの専門的な授業学習を念頭に置いてのことである。

5. 授業のアンケート結果

授業後に授業方法（受講生の問題意識を承けて授業を構想し展開するやり方）に関するアンケート（名前は無記入）を行った。以下、受講生のその記述をいくつか挙げる（下線＝筆者）。

- 他の授業で、先生が用意しているテーマについて講義を聴くだけだが、この授業では自ら問題を挙げていく、まさに問題を発見する力、問題を問題として捉える力が試され、さらにいえば、そういう力があるということ自体に気づかないでいたことを痛感した。他の授業にはまったくない展開で、意欲的に取り組むことができた。
- ただ提示された目標、講義内容を聞くのではなく、大学3年生として持っているべき問題意識の中から授業を行った今回の講義は、自分たちの中にも感じていたことを教えてもらったので、理解しやすかった。また、他の学生の思っている問題を知ることでもできてよかった。
- 私たちが抱いた問いに即して授業が進んでいったことによって、今だけでなく、教師になった後も行っていかなければならない問いに対する向かい方を学び、自分自身がどう解決していくのか糸口がつかめた。また、自分一人では浮かび上がってこなかったような問いについて考えることにより、視野が少し広が

った。

- 自分たちの中から出てきた問題意識についての授業だったので、より深く考えることができたと思う。また、他の人の問題意識を知ることでも自分の興味・関心も広げることができた。
- 課題意識を持つことができたので、問いを拾っていただける授業展開は良かった。その課題について考えることで、新たな課題が生まれたので、一つの大きな課題についてもう少しじっくり考えたかった。
- 国語教育の諸問題について、私の知識が乏しく、漠然とした考えしか持っていませんでしたが、この授業で毎回様々に取り上げてくださったことで、引き出しが増えたと思います。
- 1回1回授業形式が変わるのでとても役に立った。何をしたらいいかわからないくらいたくさんきっかけをもらった。その年ごとにあつた学習体制だと思ったので、学習者と学習内容のギャップも少ないと感じた。
- 学生の意見にそったオムニバス展開について自らの意識に合わせた授業だったので、ただ問題提起を一方向的にされて考えるより、思考を深めることができた。一つの課題について考えていく中で新たな課題意識というのが生まれてきたので、この問いをくり返すという行為を自分の中で行っていきたい。
- 問いを自分たちで出して考えていく授業は、私たち受講者が受けてきた国語の授業を振り返ったり、現代社会だからこそ出てくる問題（活字離れ、情報教育）など、自分に身近なところをメタ認知していくよい機会になりました。また、先生がいくつか教材を提示してくださることで、それらの問いを具体的に考えて行くことができたので、学びになりました。

6. まとめ

アンケートを見る限り、問題意識に即して授業内容を構成していくという展開に対する評価は高いといえよう。また、そこからは「成長する教師」に必要とされる自問自答の力の形成を見て取ることができる（アンケート下線部等）。また、レポートの内容も充実したものであった。さらに、国語教育のあり方に関する考究的態度が育成されている様子も伺えた。授業の工夫の効果はあったように思われる。